

# こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blogです

## アーカイブ: 2009年1月

**2009/01/31**

□ 14:58:21, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 1273 

詩の歳時記—215 「龍の玉」



生ひ立ちは誰も健やか龍の玉

村越化石

死して生まれよ！  
ドイツの詩人は言葉に祈る  
ひとのいのちは一回限り  
はずみ玉のごとくすこやかに生まれよ  
生きよ 生きよ 茨の世だとしても。

[2コメント](#) • [編集](#)



**2009/01/30**

□ 15:44:46, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 764 

詩の歳時記—214 「水仙花」

こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blog  
[吸殻山383番地の家に戻る。](#)  
[中央1番地に戻る。](#)

- [最新 \(キャッシュ\)](#)
- [最新 \(キャッシュされない\)](#)

**2009年1月**

日	月	火	水	木
				1
4	5	6	7	8
11	12	13	14	15
18	19	20	21	22
25	26	27	28	29

<< <

- [最近のコメント](#)

## Heavy Hitters

- [Test \(20 visits\)](#)
- [Walking1日目。 \(20 visits\)](#)
- [詩の歳時記—56 \(20 visits\)](#)
- [引用文—23・あきらめ](#)
- [詩の歳時記—117 \(19 visits\)](#)
- [詩の歳時記—82 \(19 visits\)](#)
- [花守 \(19 visits\)](#)
- [かぼちゃな一日 \(19 visits\)](#)
- [詩の歳時記—305 「冬](#)
- visits)
- [詩の歳時記—274 「あ](#)
- visits)
- [詩の歳時記—253 「桃](#)
- visits)
- [詩の歳時記—123 「桜](#)

## 検索




全ての語

いずれかの語



迷ひ子のゐる交番の水仙花

木山捷平

泣きじゃくる子の頬赤く染まり  
どこから来たのでしょうか  
どこへ行きたかったのでしょうか  
一茎の水仙の花たちも  
北を向いたり 西を向いたりして

・[編集](#)

## 2009/01/29

18:40:53, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 753

詩の歳時記—213 「夜寒」

フレーズ

検索

### カテゴリ

■ [All](#)

- [百人百詩](#) (100)
- [詩の歳時記](#) (365)
- [詩日記](#) (20)
- [My Haiku](#) (49)
- [Walking](#) (13)
- [引用文](#) (31)
- [日記](#) (163)

選択

### アーカイブ

- [2015年11月](#) (1)
- [2015年7月](#) (1)
- [2015年5月](#) (2)
- [2015年3月](#) (3)
- [2015年2月](#) (2)
- [2015年1月](#) (3)
- [2014年12月](#) (2)
- [2014年11月](#) (2)
- [2014年10月](#) (3)
- [2014年9月](#) (2)
- [2014年8月](#) (2)
- [2014年7月](#) (2)
- [続き...](#)

### いろいろ

■ [管理](#)

- [プロフィール \(admin\)](#)
- [ログアウト \(admin\)](#)

### このブログの配信

- RSS 0.92: [投稿](#), [コメント](#)
- RSS 1.0: [投稿](#), [コメント](#)
- RSS 2.0: [投稿](#), [コメント](#)



■ Atom: [投稿](#), [コメント](#)

[What is RSS?](#)

powered by  
**b2evolution**

汽車降りて夜寒の星を浴びにけり

野村喜舟

雪月花

静かな真昼の美術館

その記憶を乗せて列車は走る

薄い夕暮を抜けて夜の駅

冬の星の祝福を浴びるまで

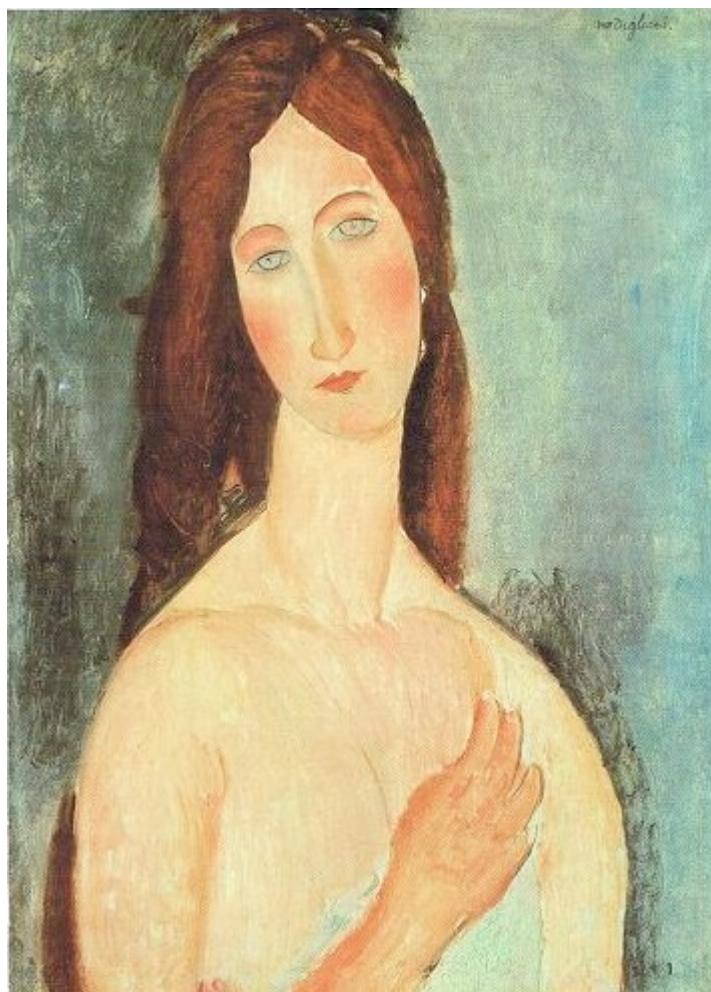
・[編集](#)



## 2009/01/26

□ 21:01:31, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 671

詩の歳時記—212 「雪国」



雪国に子を生んでこの深まなざし

森澄雄

雪国に生まれて 雪国に育ち  
ひとを愛し 赤子を生んで  
雪の重みにきしむ家で子を抱く  
見上げる子の輝く瞳は追う  
母の深きまなざしを

• [編集](#)



---

**2009/01/23**

---

22:22:47, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 682 [●]

詩の歳時記—211 「雪」



## 雪に十歩遠きへ出でて居るごとし 村越化石

雪は音もなく降る  
やわらかな雪を踏む  
眼には見えずとも  
記憶の雪は降り積もる  
わずか十歩は五十年ともなるのでした

\* \* \*

村越化石の略歴 (Mr.Fより頂いたものです。感謝。)

大正11年（1922）静岡県藤枝市岡部町うまれ。  
昭和13年（1938）旧制志太中学（現藤枝東高）在学中にハンセン病を発病。中退し離郷。  
昭和16年（1941）栗生楽泉園に入園  
昭和18年（1943）「鴨野」で本多一杉の指導を受ける  
昭和24年（1949）大野林火に師事「濱」同人  
昭和33年（1958）第4回角川俳句賞  
昭和37年（1962）句集「独眼」を発刊  
昭和45年（1970）失明  
昭和49年（1974）「山国抄」発刊 第14回俳人協会賞  
昭和54年（1979）俳人協会刊「自註句集・村越化石集」を編集  
昭和57年（1982）「端座」を発刊 第17回蛇笏賞  
昭和63年（1988）「筒鳥」を刊行  
平成元年（1989）第4回詩歌文学館賞  
平成2年（1990）第27回点字毎日文化賞授賞  
平成3年（1991）紫綬褒章を受ける  
平成20年（2008）山本健吉文学賞を受ける

平成13年（2001）「『らい予防法』違憲国家賠償請求訴訟」の裁判勝訴の判決後、里帰りを果たした。実家を出てから60年以上たっていましたのに、間取りを記憶していて仏間に直行して、両親に草津土産を供えてご焼香をなさったとのこと。ということは、生家はそのまま残っていたことになります。

「俳句朝日」の終刊号は村越化石の特集でしたが、そこにはどっしりとした生家の写真もあり、相当の旧家だったようです。

(記載間違いがありましたら、ご指摘下さい。)

・編集



## 2009/01/20

□ 21:33:05, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 680 ●

### 詩の歳時記—210 「風邪」



何をきいても風邪の子のかぶりふり

小路智壽子

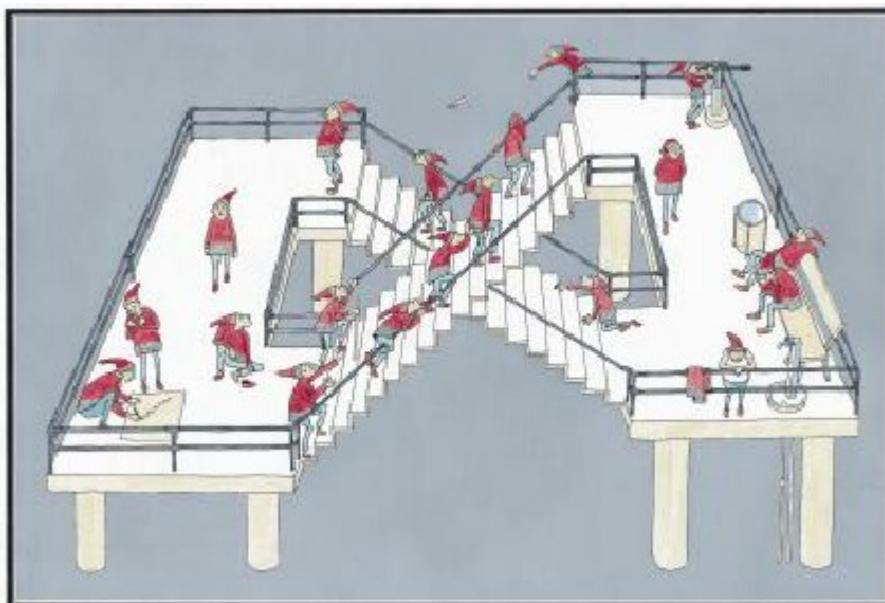
記憶をたぐってゆくと  
風邪をひいた小さな子が眠っている  
水仕事のあと母の手が  
時折まどろみのなかにさし入れられ  
子のかぶりがかすかに揺れた

・編集



□ 00:30:06, カテゴリ: [日記](#), views: 1015 ●

休憩かな?



昨年からひきずっている風邪が、まだ完治しない。  
これは、からだへの「休息命令」ではないか?  
眠い。頭が動かない。本も読めない。手紙もかけない。ないないないない  
い·····。

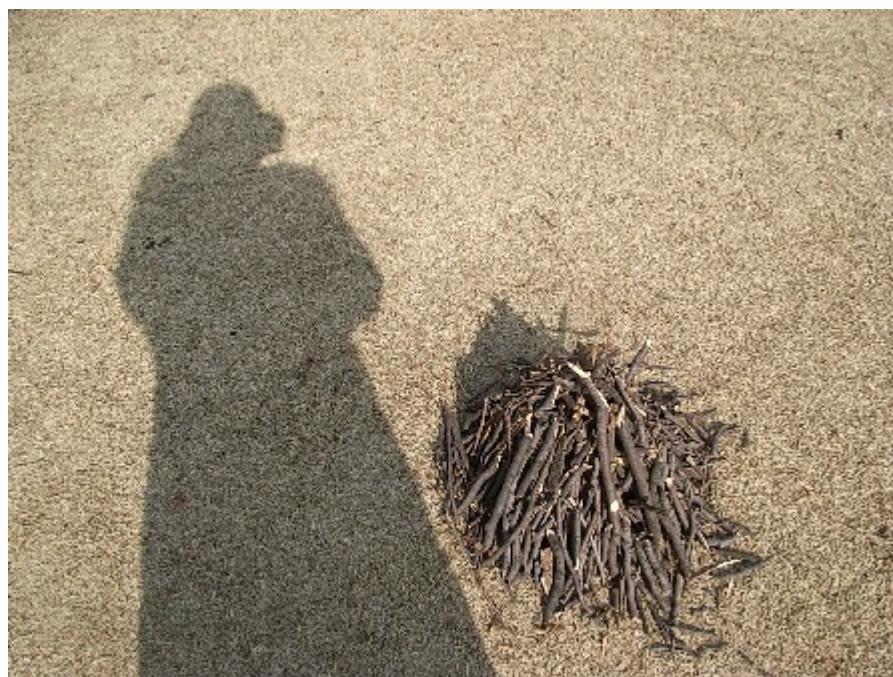
[5 コメント](#) • [編集](#)



## 2009/01/17

□ 15:59:53, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 636 ●

詩の歳時記—209 「枯野」



火を焚くや枯野の沖を誰か過ぐ

能村登四郎

草原の民は祈る

どうぞこの手のひらに一掬いの海を下さい  
草の海は枯野になって  
その沖の方をひっそりと過ぎ去る者がいる  
遠い足音 潮騒はまだ聴こえぬ

・編集



## 2009/01/16

00:50:51, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 761

詩の歳時記—208 「訃」



(Photo by Denden)

きみ嫁けり遠き一つの訃に似たり

高柳重信

あなたが嫁いでゆく  
胸のなかから  
微かな亀裂の音が聴こえてくる  
それは訃音に似て·····

・編集



## 2009/01/13

15:48:21, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 874

詩の歳時記—207 「雪」



天上に宴ありとや雪やます

上村占魚

雪は白い小さな灯りのように  
絶え間なく 音もなく降ってくる  
遠い空の奥では神々の宴  
打ち鳴らす祝盃のあわいに  
ひかり碎けるものがしきりに落ちる

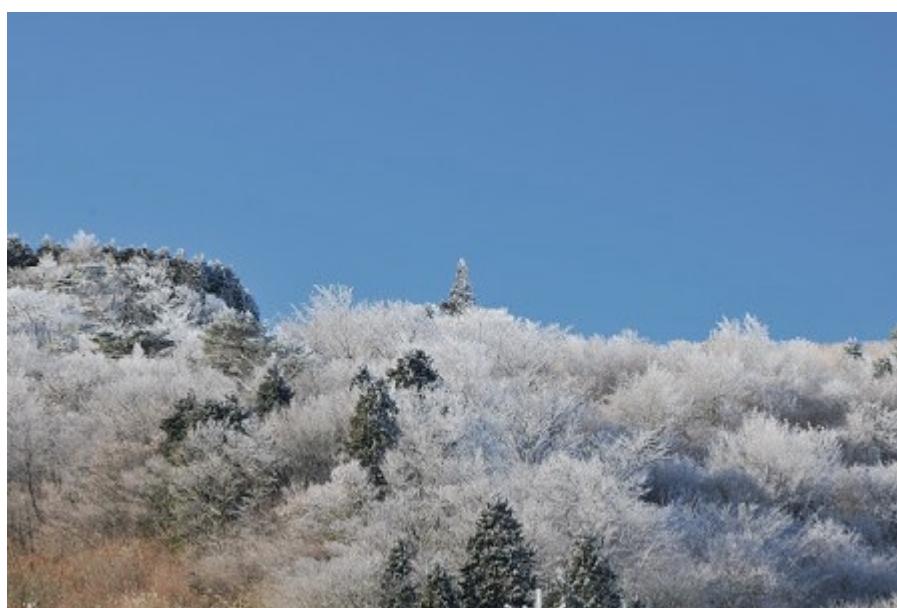
[4コメント](#) • [編集](#)



## 2009/01/10

14:15:40, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 762 [●]

詩の歳時記—206 「樹氷」



(Photo by Denden)

樹氷いま鳴れば一山鈴の音に

長沼三津夫

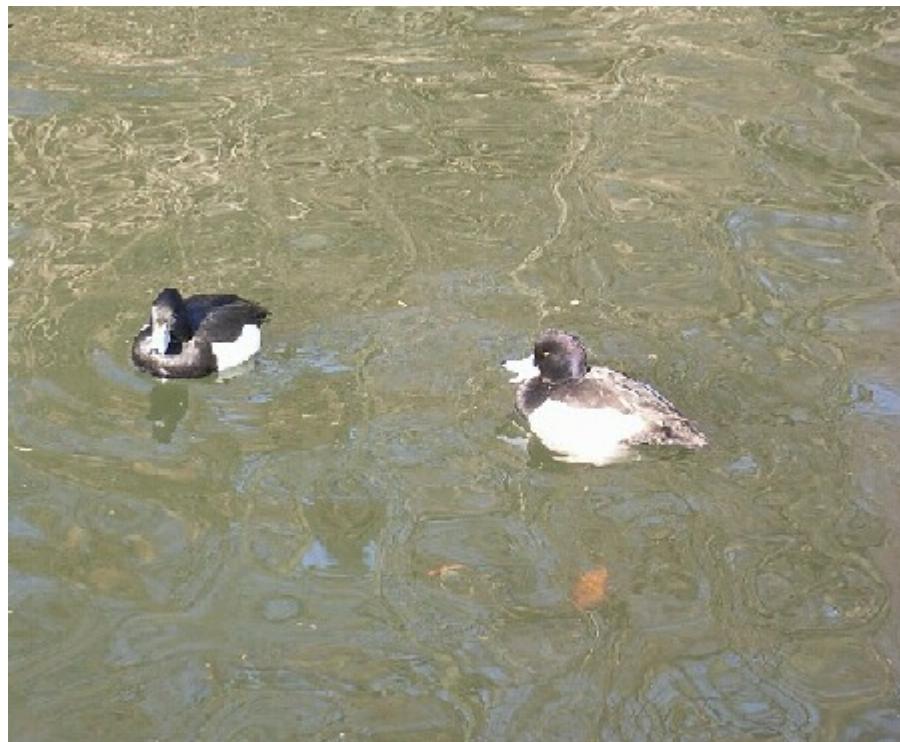
山の樹々が  
枝々に氷の花をまとう季節  
風よ吹け  
冬の花は幾千の鈴の音となる  
耐え切れずに全山が鳴り出すことだろう

• [編集](#)

## 2009/01/09

□ 16:34:58, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 683 

詩の歳時記—205 「水鳥」



水鳥の水尾くづれゆく風の音

中元英雄

水鳥が胸を膨らませて  
冷たい水面を進んでゆく  
鳥の尾から生まれる水の尾  
水の尾に触れてゆく風の尾  
ひとの耳は風景を聴きとる

• [編集](#)

## 2009/01/07

□ 17:32:37, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 726 

詩の歳時記204—「噴水」



水を脱ぎ噴水空に飞沫せり

中尾公彦

水は水を脱ぐ  
わたくしがわたくしを脱ぐ  
空のなか 不思議は起こるもの  
落下するとき  
欠片となるか 形となるか

・[編集](#)



## 2009/01/04

22:03:00, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 752 

詩の歳時記—203 「野球」



野球のバットを持つ子規(明治23年3月, 松山市立子規記念博物館所蔵)

球投げに似たる二人の候ふ文

高田昭子

漱石さま 子規さま  
お二人の往復書簡盗み読み候  
「アヂユー」「勿々」  
「燈火ニ書ス 倫敦ニテ」  
……キャッチボールの如し

\* \* \*

とりあえず、遊びから再開します(^^)。

[2コメント](#) • [編集](#)



## 2009/01/01

18:52:09, カテゴリ: [日記](#), views: 797

謹賀新年

ことしもよろしくお願ひいたします。

二〇〇九年  
元旦

あかるい  
けさの  
まどをあければ  
しろいひかり  
てをさしのべ  
おひさまの  
めぐみをいたく  
でかけよう  
とをあけて  
うつくしい  
ごのじんじや  
ざわめきのな  
いのります  
またおとず  
こやかな  
あなたとい  
かねんの  
すれたい  
ひびを

[2コメント・編集](#)

Original template design by François PLANQUE.

